

第1学年公民科学習指導案

指導月日 令和〇年〇月〇日

授業者 〇〇 〇〇

1 単元名「公共的な空間における人間としての在り方生き方」（「数研出版 高等学校 公共」）

2 単元の目標

- (1) 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解することができる。
- (2) 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、(1)に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解することができる。
- (3) 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- (4) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

3 単元観

この単元は、大項目A「公共の扉」の中項目として設定されている。この項目では、社会に参画し他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方にはどのようなものがあるかを理解できるようにする。そして自分も他者も共に納得できる解決方法を見いだすために、理解した考え方がどのように活用できるかといった、社会に参画し、他者と協働する倫理的主体となることに関する適切な問いを設け、それらの課題を追究したり解決したりする活動を行う。その活動を通して選択・判断の手掛かりとなる行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について理解できるようにする指導が求められる。また、大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」及び大項目C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の学習で扱う社会的事象等について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養うように留意する必要がある。

4 生徒の実態〔第1学年〇組〇名〕

生徒の現代の諸課題への関心は高く、日頃から社会的な話題に興味を示す生徒が多い。また、社会的事象や道徳的価値への理解も中学校までの学びが身に付いている様子が見られる。しかし、国家・社会の一員としての視点で現代の諸課題について考える姿勢は十分ではなく、幸福・正義・公正に着目して課題を解決する力を養う必要がある。授業態度は良好で、グループ活動にも積極的に取り組む姿が見られるため、授業においてもグループ活動を取り入れ、生徒が多面的・多角的に考察する場面を設定したい。

5 指導観

この単元では選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方（功利主義）や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方（義務論）などを具体的な事例を用いて理解させたい。また現代の諸課題について、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、理解した考え方などを活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方

生き方について探求することが重要であることを理解できるようにしたい。そのため、グループワーク等において意見交換を行い他者の多様な考え方にも触れることができる場面を設定すること、功利主義や義務論は行為の選択・判断の手掛かりの一例であり、他の様々な考え方があることにも留意したい。さらに選択・判断の手掛かりへの理解を基に、思考実験を通して人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現できるように指導したい。

6 道徳教育との関連

本時では、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことが道徳教育につながるものとなる。また、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、幸福、正義、公正といった価値が、よりよい社会の構築に大切であることに気付かせる指導も道徳教育につながるものとする。

本時においては、国家社会の一員としての自覚に基づき考えることができるようになる高校生の発達の段階を考慮し、社会に参画する主体としての視点に立って思考する振り返りを設定する。これも道徳教育に関わるものとなる。また道徳教育重点目標の達成に資する方策としてグループワークを行う。（別紙1参照）

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、理解した考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。	幸福、正義、公正などに着目して倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正といった義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	「公共的な空間における人間としての在り方生き方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 単元の全体計画（10時間扱い 本時8／10）

○「評価に用いる評価」

●「学習改善につなげる評価」

次	主な学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 1時間	・科学的・合理的な考え方 西洋近代思想について、経験論と合理論を比較しながら理解する。事例を用いて義務論を理解する。	○			経験論と合理論について理解している。 (記述)
第二次 2時間	・民主社会の倫理 功利主義について思考実験を用いて理解を深める。フランクフルト学派の思想について理解する。	○			功利主義、フランクフルト学派の思想を理解している。 (記述)
第三次 1時間	・他者とともに生きる 自分らしく生きること、社会とのつながり、他者とともに生きることについて、先哲の思想に触れ思索を深める。		○	●	社会の中で他者と共に自分らしく生きることについて表現している。 (記述、発言)
第四次 1時間	・地球環境をめぐる問題 設定された環境についての課題に対してグループ内で話し合いを行う。		●		課題について自分の考えを根拠を基に述べている。 (発言)
第五次 1時間	・資源・エネルギーをめぐる問題 原子力発電の現状と課題について理解を深める。	●			原子力発電の課題について理解している。 (記述)
第六次 2時間 本時	・生命をめぐる問題 設定された生命についての課題に対して、グループ内で意見交換を行い、合意形成を図る。功利主義、義務論への理解を更に深める。	●			功利主義や義務論の違いを理解し適切に活用している。 (記述、発言)
第七次 2時間	・情報をめぐる問題 インターネットの功罪についてグループ内で意見交換を行い、思索を深める。		●	○	功罪について多面的・多角的に考察し表現している。 (記述)

8 本時の計画

(1) 目標

- ① 臓器移植の優先順位を考える活動を通して、功利主義や義務論を理解することができる。
- ② 自己の選択・判断の基準を自覚し、現代の諸課題について深く考察することができる。

(2) 本時の指導に当たって

- ① 本時の目標を達成するために、思考実験として臓器移植をテーマにした自作資料をもとに指導を行う。功利主義や義務論を行為の選択・判断の手掛かりとして活用することで、理解を深めさせたい。
- ② グループ活動として、功利主義、義務論を参考としながら、臓器移植の優先順位を決めるための基準づくりを行う。よりよい選択・判断ができるように幸福、正義、公正といった価値の大切さにも気付くことができるよう指導したい。また、他者の考えに触れることで、自分の考えを広げ、思索を深められるように全員を積極的にグループ活動に参加させ、行動観察をしっかりと行いグループごとに助言できるよう留意したい。
- ③ 振り返りでは、社会に参画する主体としての視点に立って思考するよう促したい。

(3) 指導過程

段階	学習活動 (○主な発問・指示)	予想される生徒の反応	指導上の留意点	評価
導入 10分	1 思考・判断の手掛かりについて理解する。 功利主義・義務論について理解する		- 教材について説明する。 - 功利主義、義務論について説明する。	
展開 35分	2 概念的な枠組みを用いて考察する活動を行う。(臓器移植の優先順位を考える) ○個人で臓器移植の優先者を決めてください。功利主義・義務論として理由を書いてください。 ○グループで臓器移植の優先順位を決めるための基準を作ってください。理由も考えてください。	- 重症であればすぐに助けるべきだから。(義務論) - 死ぬ可能性が高い人を最初に救うのは正しいことだから。(義務論) - 世界規模で貢献できる人を助ければ利益が広がる。(功利主義) - 回復後に多くの人を幸せにできるかもしれない。(功利主義) - 年齢若い人を助ける。未来がある。	- 個人活動として優先者を考えさせる。功利主義や義務論のどちらを重視するかは自己の人生観や価値観で判断することになるが、これが正しい判断であると言えるような理由を考えることを伝える。 - 功利主義、義務論を参考としつつも、自分達なりの理由を考えてよいことを伝える。	【知識・技能】ワークシートへの記述

	○実際の心臓移植の基準に照らして、優先順位を確認してください。	・重症度 人命が大事だから。 ・社会貢献度 世の中の利益を増やすことになる。	・グループ活動では全員が自分の考えを発言するよう促す。 ・合意形成を図るよう伝える。 ・一位の基準と理由を発表してもらう。	
終末5分	3 振り返り ○功利主義や義務論を参考に、実際の心臓移植選択基準の優先順位についてどう思うか述べてください。		・実際の優先順位を確認する。 ・実際の基準が義務論に基づいていることに触れる。	
			・よりよい社会の構築には幸福，正義，公正が大切であることについて述べる。	

(4) 本時の評価

標準「概ね満足できる」と判断される状況	思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，行為の選択・判断の手掛かりとなる功利主義や義務論の違いを理解して区別することができる。
「十分満足できる」と判断される状況（A）	思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，行為の選択・判断の手掛かりとなる功利主義や義務論の違いを理解し適切に活用している。
「努力を要する」と判断される状況（C）および生徒への手立て	行為の選択・判断の手掛かりとなる功利主義や義務論の違いが明確になるように説明を加え，区別できるようにする。

(5) 準備物

- ・ワークシート（別紙2）

高校道徳シート

本時の主題	生命に関わる思考実験を通して功利主義・義務論について理解を深める。
「人間としての在り方生き方」を考える教育が目指すこと	
自分にふさわしいよりよい生き方を，選択可能ないくつかの生き方の中から選ぶ上で，自身に固有な選択基準ないし判断基準を生徒に持たせること。	
1 道徳教育重点目標	2 発達の段階（高等学校）
目指す生徒の姿	
- 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。 - 公共の精神を貴び，民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する。 - 伝統と文化を尊重し，それらを育んできた郷土を愛し，地域社会に貢献できる人間を育成する。 - 他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する。 - 教養を身に付け，社会人として自立した生活が送れる人間を育成する。 - 思いやりの心を持ち，多様な他者との協働が図れる人間を育成する。	・自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり，人間としての在り方生き方についての関心が高まってくる。 ・幅広い見方による普遍的な思考ができるようになる。 ・行為の結果と行為の動機どちらも踏まえて，深い思索ができるようになる。 ・人間としての在り方生き方について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。 ・国家社会の一員としての自覚に基づき，考えることができるようになる。
3 各教科，科目等と道徳教育の関連	
よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。また国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについて自覚を深める。	
4 本時での道徳教育に関わる場面・指導方法等	
・思考実験を通して選択・判断の手掛かりについて理解させる。 ・グループワークを通して合意形成を図る。 ・社会に参画する主体としての視点に立って思考する振り返りを行う。	

公民科ワークシート 「生命をめぐる問題」 年 組 番 氏名

○選択・判断の基準

- ・功利主義:行為の善悪を行為の結果で判断する。結果として多くの人の幸福を重視する。
- ・義務論:結果にかかわらず、行為そのものに価値があると考ええる。公正, 正義などの動機を重視する。

1 どちらを優先して臓器移植(心臓移植)を行うか、優先順位を考えてください。

患者	特 徴	理 由
A	・最も重症（生命の危機が迫っている。 体力的に移植失敗のリスクがある）	
B	・回復した場合に社会貢献度が最も高い （世界を救うかもしれない研究を行っている）	

2 グループで臓器移植の優先順位を決める基準(優先条件)を作ってください。どのような条件に該当すれば優先されるのか、多くの人から納得が得られる条件を2つ、理由も含めて考えてください。

	条 件	理 由
1 位		
2 位		

◎本日の活動を通して

- ・功利主義や義務論を参考に, 実際の心臓移植選択基準の優先順位についてどう思うか述べてください。
